

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和5年1月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104538		
法人名	医療法人 潤生会		
事業所名	たかまつグループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県和歌山市西高松1-5-36		
自己評価作成日	令和5年1月5日	評価結果市町村受理日	令和5年2月14日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カロア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和5年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>アットホームな雰囲気作りや毎日ご利用者様との会話を大切に、笑って楽しく過ごす環境作りを心がけています。新型コロナウイルス感染症予防の為の外出や散歩は行えていませんが、ホーム内で毎日体操を行ったりし体を動かして頂く機会作りをしています。たかまつグループホームでは、職員に看護師を配置しており、また訪問看護ステーションとも連携し、緊急時でも母体である宮本医院からの往診ができ、速やかに治療につなげる事が可能です。医療ニーズの高い利用者様の受け入れも積極的に行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>和歌山城から数キロの国道沿いにある事業所は、生活の利便性に恵まれた立地となっています。同法人の医院や居宅介護事業所、訪問看護事業所などが同じ敷地内にあって、連携や協力体制も整って医療面だけでなく、グループホームから次の支援が必要な場合の相談など、その方のその時の状況に合わせた支援が整っています。</p> <p>「一人ひとりに愛情を込めて」という理念を誰よりも管理者が大切にしている、利用者の尊厳や希望、思いに配慮したケアが実践できるように、方針の共有や質の向上を目指した日頃の管理者からのコミュニケーションの機会を積極的に取っています。</p> <p>同敷地内の医院との連携だけでなく、事業所専従の看護職員の配置もあって、可能な範囲での日常の看護ケアも提供されている他、利用者等の希望や状態に沿ったターミナルケアにも以前から取り組んでいて、数多くの事例も見られています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人に愛情をこめてという理念のもと、自分の家族だったらどう思うか、ご本人様の生きがいや楽しみを見つけることをスタッフ間で話し合い、日々の関わりの中で取り組んでいます。	職員の新採用の際にも、理念を含め事業所の方針や取組、考え方などについて、時間を掛けて丁寧に説明しています。職員間でも会議等で検討する際も、理念を大切に考えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ数年前からコロナウイルス感染予防の為、以前は行っていた散歩等への行けず、交流等は行えていません。	コロナ禍の現在は、以前のような地域交流は難しいものの、地域のお店への買い物や、近くの民生委員などとの交流は現在でも継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスが流行してくる前までは、運営推進会議等を活用してお伝えしていました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の利用者様の様々な事を報告し、それぞれにご意見を頂戴し日々の業務に反映させサービス向上に努めています。	運営推進会議自身は、現在事業所の職員だけで行い、運営状況などを資料にして民生委員や包括支援センター、家族など以前からの推進委員に郵送して、意見などを返送してもらっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実際のサービス中で疑問があれば電話等で相談させて頂き、指示や意見を伺いながらケアに取り組んでいます。	地域包括支援センターや介護・福祉の行政窓口の他、コロナに関することなどは保健所などにも連絡したり、情報の共有にも努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	グループホームのスタッフの中から身体拘束委員を選出し、委員で研修内容等を検討しスタッフ全員で年に2回研修も行っています。玄関の施錠については入居時に説明を行い同意を頂いています。	身体拘束委員会が中心となって、年間計画に基づいて研修を実施しています。いわゆる身体拘束だけでなく、言葉による抑制についても、日頃から職員間で声を掛け合って意識しています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で研修・会議等で話し合う場を作り、利用者様のケアに活かしています。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ間で研修を行っています。現在も成年後見制度を利用されている利用者様もおられます。今後も活用が行える様に支援を行っていきます。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族と面談し、契約について不安や疑問点について十分説明をさせて頂いています。内容の改定時には新たに説明をさせて頂き了承を頂いています。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱の設置や、年に1度アンケート調査等をさせて頂いていますが、お面会時や電話をさせて頂いた時等に直接意見や要望を聞かせて頂き運営に反映できるようにしています。	利用者からの要望は、日頃のケアの中で聞き取り、食事に関することは献立に反映できるように、厨房とも連携しています。コロナ禍以前は行事の際に、交流会を通じて意見を聞いています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	会議や日常業務の中で各職員が活発に意見を発言し、その意見を運営に反映させています。	管理者自身が職員の意見を聞く意識が高く、定期の会議や職員間連絡帳以外にも、随時の面談や日常の会話を通して把握した意見や提案を、運営に反映するように努めています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	限られた環境の中ではありますが、年2回の人事考課を行う等をし、やりがいや向上心をもって働ける環境作りに努めています。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は外部研修への参加は行えていません。スタッフ間では毎月研修を行うようにしています。コロナの状況に応じて資料配布を行うようにし、知識や技術を身につける様にしています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	業務での困った事等があれば、他事業所の管理者さんや居宅のケアマネに相談を行いサービスの向上に努めています。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前にご本人と面談し、心配事やご要望等を聞かせて頂き、いろいろとお話をさせて頂きながら少しでも不安の軽減や安心してご利用頂ける様に努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に面談し、心配事やご要望等を聞かせて頂き説明を行い、安心してご利用頂ける様に努めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・スタッフ間だけでなく、医師や看護師、理学療法士等とも意見交換を行い、その都度必要な支援について検討し対応を行っています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から利用者さんとの会話を大切にし、時には利用者さんの若い頃の思い出話を聞かせて頂いたりして、支えあう関係作りに努めています。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から家族さんともケアについて相談をさせて頂き、一つ一つにご理解を得ながら、共にご本人を支えて行ける関係作りに努めています。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	コロナウイルスが流行してくる前までは近隣への散歩や友人の訪問等がありました。現在は家族さんの面会のみになっています。	コロナ禍で以前のような状況は困難ですが、望む家族などには受診の際の付き添いをお願いしたり、手紙や日頃の様子を記録したものを毎月郵送したりなど、関係性の継続を図っています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席の配置等の検討を行ったりし、利用者さん同士がより良い関係作りが行えように努めています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて経過のフォローや相談対応を行っています。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思表示が可能な方にはできるだけ本人の希望・意向にケアを行う様に努めています。意思表示が困難な方の場合は、ご家族に意見を聞いたり、ご本人の立場に立ち考えるようにしています。</p>	<p>入居前の情報に加えて、日々把握した情報を更新しています。把握した情報は、職員間連絡帳などで共有して、日々のケアや介護計画などにも取り入れて、利用者本位に努めています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人・家族、ケアマネさん等に今までの生活環境についての情報収集を行い、これまでの暮らしを捉えて把握が行える様に努めています。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>スタッフ間でも普段から情報共有を行い、ご本人の出来る事出来ない事等の把握しご本人が有する力を維持できる様に努めています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>それぞれの意見を聴取し、スタッフ間でも話し合いケアの方針を検討し、介護計画に反映しています。</p>	<p>隣接の同法人医院の理学療法士や栄養士などからも情報や意見を聞き、計画作成にあたっています。計画内容を介護職員が把握してケア提供しやすいようにファイルリングしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>その日の様子や体調等の詳細を分かりやすく記入するようにし、スタッフ間で共有しています。介護計画を見直しの際にも活用しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じ訪問看護のりよう、デイの体操への参加等を行っています。スタッフ間でも柔軟な支援を行える様に検討し取り組んでいます。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナウイルス流行前は、地域のお祭りに参加させて頂いたりしていました。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族さんが希望されるかかりつけ医に受診頂いています。	入居前からの精神科・眼科・歯科などのかかりつけなどの医院にも、コロナ禍の現在も受診できるよう家族の協力も得たりしながら、支援を継続しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	グループホームの中で看護師が配置されており、いつでも相談が可能になっており、必要時には訪問看護も利用し適切な看護を受けられる様に支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居された時は早急に入院先に伺い情報提供を行い、退院時にはカンファレンス等に参加し情報収集を行い、退院後医療的な処置が必要な場合も対応出来る様にしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期についての希望をご本人・家族に確認しています。また、状況に応じてその都度、主治医・ご本人・家族等と話し合い方針を共有し支援に取り組んでいます。	同法人の医院や訪問看護とも連携して、家族や本人の意向に沿った重度化や終末期のケアに取り組んでいて、看取り事例も多く持っています。特養入所の支援なども希望に沿って実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で話し合ったり、研修を行ったりしています。看護師の指導で初期対応・応急処置等が行える様に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ間で自主訓練を年2回行っています。最寄りの消防署へも訓練の報告等を行い災害時に協力頂ける様にしています。	年2回の消防避難訓練の実施以外に、地震・津波の被害や起こった際の避難・対応・備蓄品(食料・水・防災グッズ等)などについても計画的に整備しています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>研修等を行いスタッフ間で勉強を行っています。日々の業務の中でも尊厳を損なう声掛けを行っていないか等もスタッフ間で気をつけて注意しあい、尊厳とプライバシーの確保に努めています。</p>	<p>特に利用者の尊厳を大切にする方針は、管理者が職員と日頃から積極的にコミュニケーションを取って周知しています。入職した職員にもそれ以外の方針も含めて、時間を取って管理者が伝えて共有を図っています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>普段から食べたい物や飲みたい物等希望を聞き、小さいことでも自己決定してもらえる機会作りをしています。利用者さんの表情・仕草等にも注視し思いを反映出来る様にしています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人一人の体調に注意しながら、ご本人のペースで思うように過ごして頂く様に支援をしています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>お化粧をされる方は毎日されています。ご本人の好みの色等の把握や、散髪時もお自分で髪型を決めてされています。ご自分で伝えられない方には家族さんに相談したりして支援を行っています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は厨房にて毎食調理を行っています。食べたい物の希望や行事の時は厨房に伝えていきます。おやつは利用者さんの希望を聞いてお出ししています。片付けは、利用者さんに食器拭きをして頂いています。</p>	<p>同建物の入居施設厨房より運んだ食事を、温め直すなど適温に配慮して提供しています。療養食や嚥下食など個別に合った食事提供も提供しています。季節の食材を使った献立もなっています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水便量は記録し注視しています。摂取量が少ないと思われる時は主治医に報告し対応をしています。一人一人の食べやすい形態で本人のペースで召し上がって頂く様に支援をしています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食事や水分摂取時にはうがい、食後には歯磨きを行って頂き口腔清潔を行っています。必要な方には介助を行っています。できない方には、口腔シートを使用し口腔内の清潔に努めています。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を必要な方には、見守り・介助を行っています。	利用者個別の排尿・排便のパターンや心身の状況、その日の状態に合わせて、できる限りトイレに座ったケアに努め、定期的に健康的な排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品の摂取を行って頂いたり、便秘時は看護師に報告し緩下剤等で便秘解消に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の希望は利用者さんに聞いています。体調が優れない時は清拭等を行っています。入浴剤を入れたりして入浴を楽しんで頂く様に支援を行っています。	一人ひとり個別に時間を掛けて、入浴剤なども取り入れるなど、職員と一対一でのゆったりとした入浴の機会となるように支援しています。入浴しない場合の代替ケアにも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は居室でゆっくり休んで頂く等、ご本人のペースで支援をさせて頂いています。ご自分で訴える事の出来ない方は表情等で判断させて頂き休んで頂いています。居室の温度にも注意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんの薬情をファールスタッフ間で共有出来る様にしています。副作用と思われる症状がみられる時は看護師・主治医に報告し経過観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に聴取している生活歴や、生活の中でご本人が好きなお事・得意なお事の把握し、楽しみ・気分転換を行える様に支援をしています。主婦をしていた方には家事仕事をしてもらい生活の中で役割を持って頂く様にしたりしています。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為外出支援は行えていません。	敷地内の花など限られた場所での外気浴の他、馴染みの場所などへドライブして車内から見物したりなど、コロナ禍でもできる限りの外出支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームではお金は預かっていません。必要な物があればご家族さんに連絡し持参頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される場合電話をさせて頂いたり、スタッフがご家族さんに電話をした際に替わり話をして頂いたりしています。お手紙が届いた時はご本人に渡しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階リビングや玄関先には季節を感じて頂ける様に飾りをしています。飾り作りは利用者さんにも作って頂いています。	1日を通して日差しが入る暖かい空間で、畳や縁側のスペースも設けています。湿度や空気清浄などコロナ対策も取っています。季節の飾り付けなど生活感にも配慮した生活環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者さん同士が楽しくお話が出来る様に座席の工夫等を行っています。横になりたい時にはすぐに横になって頂く様にもしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人・家族が思う様にして頂いています。写真を飾られたり、ご自分で塗った塗り絵を飾られたりしています。	居室には原則使い慣れた物を持ち込めるようになっています。日頃の衣類なども、コロナ禍で中に入れない家族の思いに沿って、適切な管理や家族に相談して適時の入替などにも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が出来る事は見守りし行って頂く様になっています。ご本人が出来る事・分かる事を活かした家事仕事やレクリエーションをスタッフも一緒にに行い安心して行える様にしています。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ② ③ ④	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	③	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	④	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	④	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	③	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない